

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 学部の理念・目的は適切に設定されているか</b>						
a ◎学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。 ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。 【約500字】	①「文学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」(2016年6月作成)(80頁)において、「1 理念・目的」を掲載している。  ② 学則別表9に「人材養成その他の教育研究上の目的」を定めている。					
<b>(2) 学部の理念・目的が、大学構成員(教職員及び学生)に周知され、社会に公表されているか</b>						
a ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること。 【約150字】	①「文学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」は、「1 理念・目的」を含め、教授会で承認しており、本学部教職員に周知されている。また、学科ごとの教育理念を学部便覧に記載して大学構成員の誰もが把握できるようにし、かつ学生にはガイダンスにおいて指導して、周知・徹底を図っている。  ② 学則別表9「人材養成その他の教育研究上の目的」は、明治大学ホームページに公開しており、受験生を含む、社会一般に公表している。					
b ●人材養成の目的の認知状況を確認していること。 【約200字】	2015年度に実施した「大学における学びに関するアンケート」によると、文学部の「人材養成その他の教育研究上の目的」の認知度は40.8%で他学部と比べても高くない。 今後、受験生に対しては本学ホームページ・学部ガイド等で、入学者に対しては便覧・シラバス・ガイダンス等で、認知度を高めていく必要がある。 また、知る機会としては、本学ホームページ・シラバス・便覧が各8%で同じ数値となっている。 なお、2016年度にはアンケートは実施していない。					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(3) 学部の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか</b>						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	①「教育・研究に関する年度計画書」は、毎年度、各専攻からの意見を聴取し、社会情勢や学生の学修実態に即して「教授会」において見直しを行っている。2016年度は7月11日教授会で承認され決定した。  ② 学則別表9「人材養成その他の教育研究上の目的」を変更する際には、教授会審議を経て、全学の教務部委員会、学部長会、理事会の審議承認を経て改正することとなっている。2016年度は改正していない。					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(1) 学部として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか</b>					
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	① 求める教員像は、「文学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」(2016年6月作成)(81頁)「3教員・教員組織」において掲載している。  ② 教員組織の編制方針は、「文学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」(2016年6月作成)(81頁)「3教員・教員組織」において掲載している。  ③ 学部の「求める教員像」及び「教員組織の編制方針」を明記した「教育・研究に関する長中期計画書」を教授会で承認することにより、本学部教職員で共有している。				
b ◎<基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示> 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 【約150字】	① 専任教員の任用及び昇格に関しては、学部で定めた「文学部における教員の任用及び昇格審査基準」により明確に規定している。  ② 任用時の求める能力は上記基準「I審査基準, 1任用審査」に、昇格については上記基準「I審査基準, 2昇格審査」に規定している。文学部が教員に求める専門的能力、業績、教育的能力、資質を明確にしたものであり、その運用は「採用人事選考委員会についての運用細則」によって厳正に行われている。				
c ◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。 【約300字】	① 学部全体の体制としては、学部を設置された「教務課題検討委員会」「人事計画委員会」がこれら諸問題の検討を行い、選挙によって任命された学部長を筆頭責任者として、各学科長および教務主任によって構成される役職会において審議され、最終的には教授会の承認を得ることで責任体制を明確にしている。専任教員(特任、助教は除く)をメンバーとする文学部教授会のもとには役職会メンバーおよび各専攻・セクション責任者で構成される「学部運営協議会」が設置され、さらに常設の委員会として10の委員会が活動している。  ② 文学部は、専攻にかかる専門教育部門、学科専攻横断的・基盤的な教養教育部門、そして資格課程にかかる教育部門の大きく3部門から成り立っている。これら3分野について、専門教育を行う教員が基礎・教養教育にも携わり、基礎教育と専門教育の連携に努めている。各専攻の専門性と関連の強い基礎教育に関しては専攻・学科の独自性を尊重している。				

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画			
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
<b>(2) 学部の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか</b>							
<b>教員の編制方針に沿った教員組織の整備</b>							
a ◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令（大学設置基準等）によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること（設置基準第7条第3項）【約400字】  ※ 現在数とは、2017年5月1日現在の数値です。	設置基準上の必要教員数と現教員数（2017年5月1日現在の教員数、資格課程所属教員を含まない、以下カッコ内は現教員数）は、学部33名（88名）、文学科16名（47名）、史学地理学科11名（30名）、心理社会学科6名（11名）であり、基準を充足している。助手は20名である。						
	設置基準上の必要教授数と現教授数（2017年5月1日現在の教授数、以下カッコ内は現教授数）は、学部17名（64名）、文学科8名（29名）、史学地理学科6名（17名）、心理社会学科3名（4名）であり、基準を充足している。						
	専任教員一人当たりの学生数は、収容定員ベースでは学生数3,100名に対して27.2名、学生現員ベースでは学生数3,592名に対して31.5名である。これは他学部と比較して少なく、少人数による実践教育を重視する文学部の基本理念に適うものである。						
b ◎『教員組織の編制方針』と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。【600～800字】	資格別担当授業時間の平均は、教授13.6時間、准教授12.2時間、専任講師12.6時間、助教5.6時間であり、研究時間の確保に配慮している。						
	学部開設科目に占める専任教員の担当科目の比率（専兼比率）は、専任教員106名が47.3%（859コマ）を担当し、兼任講師304名が52.6%（1,036コマ）の科目を担当している。専攻必修科目の多くを専任教員が担当する一方、自由選択科目では兼任講師による多様な講義が行われている。兼任率の高さは各専攻の専門性と広汎性の重視によって必然的に科目数が多くなることに帰因しているが、兼任率は、2015年度の55.4%に比して2.8%低下させている。						

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

<b>点検・評価項目</b> <small>◎…法令等の充足を評価する項目です。                      ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</small>	<b>現状の説明</b>	<b>評価</b>		<b>発展計画</b>		
	<b>C列の点検・評価項目について、必ず記述してください</b>	<b>効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述</b>	<b>改善を要する点・理由 F列の現状から記述</b>	<b>「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目</b>	<b>「改善を要する点」に対する発展計画</b>	
	<small>(当年度・次年度対応) H列にあれば記述</small>	<small>(中長期的対応) H列にあれば記述</small>				
	実務経験を重視して採用されたいわゆる実務家教員は、資格課程のうち教職部門に1名いるほか、教養課程の教員1名と心理社会学科臨床心理学専攻の全教員（6名）を合わせて7名は臨床心理士の資格をもち、カウンセリング業務も行う実務家型の側面を併せ持っている。さらに本学部では学内付属機関の教員組織と連携した教育も行っており、考古学専攻では専攻所属教員5名の他、学芸員養成課程担当教員2名、本学黒曜石研究センター特任教員1名、本学博物館学芸員2名が各所属組織の特性を活かしながら「考古学研究法」「考古学実習」等の少人数教育を指導しており、学芸員養成と研究者養成等に強みを発揮できる体制となっている。これらのことから、教員の編制方針と教員組織の整合は図られている。					
<b>教員組織を検証する仕組みの整備</b>						
<b>C</b> ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600～800字】	教員組織の検証プロセスについては、毎年度7月に決定する「教育・研究に関する年度計画書」において文学部長中期計画を策定している。また、毎年1月に学長から示される「教員任用計画の基本方針」に従い、役職者会と人事計画委員会において学部教員任用計画を策定している。「年度計画」の策定にあたっては、将来構想委員会と自己点検・評価委員会の意見を参考として、適切な人事が遂行されるように公正性と透明性に留意しながら教員組織を検証し、その編制方針の見直しを行っている。さらに「学部教員任用計画」の策定にあたっては、人事計画委員会や教務課題検討委員会の議を経て、将来構想や必要な授業科目の検証と合わせて補充・増員すべき教員の主要科目、資格を検討し、教員・教員組織の検証を行っている。なお、検証の結果は役職者提案として議題に上がり、教授会において審議される。そこで承認された後に「学部教員任用計画書」として、学長に提出される。					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか</b>						
a ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、 手続を明文化し、その適切性・透明性を担 保するよう、取り組んでいるか。 【400字】	<p>教員の募集・任用・昇格にあたっては、大学で定める諸規程に基づき、文学部教授会が「文学部における教員の任用及び昇格審査基準」を制定し、さらに「採用人事選考委員会についての運用細則」に則って、厳密に人事が行われている。</p> <p>また、昇格人事についても、「文学部における教員の任用及び昇格審査基準」にしたがい、採用人事に準じた委員会を設置して審査している。その結果、専任准教授2名、専任講師2名、助教2名を任用し、専任教授へ2名、専任准教授へ2名が昇格した。</p>					
<b>(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか</b>						
<b>教員の教育研究活動等の評価の実施</b>						
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	<p>① 教育活動の業績評価について、授業評価アンケートを利用して、自身の教育活動を検証・評価し、教育活動の質的向上をはかっている。</p> <p>② 研究活動の業績評価について、研究活動では、『文芸研究』『駿台史学』『心理社会学研究』『心理臨床学研究』への論文発表を奨励し、査読審査を経た上で掲載、公開している。</p> <p>③ 総合的な業績評価として、社会貢献や社会連携活動の一種である各行政機関などの外部組織の委員就任については、教授会の承認を得ることを要件とし、周知を含めて厳正な取り組みを行っている。社会貢献等の諸活動については、毎年大学のホームページに専任教員の研究・教育・社会的活動・学会活動などを掲載して透明性を高めている。</p> <p>④ 外部からの研究費について、科学研究費補助金の年度推移をみると以下の通りである。2014年度：採択件数13・採択率56.5%・総額53,820,000円・研究費総額に対する割合35.1%、2015年度：採択件数10・採択率34.5%・総額49,270,000円・研究費総額に対する割合35.3%、2016年度：採択件数9・採択率42.9%・総額60,320,000円・研究費総額に対する割合39.2%。すなわち、毎年10件前後が採択されていて、その金額は学部の研究費総額1億5千万円前後の35%前後を占めているという状態である。また、共同研究費300,000円（2015年度、研究費総額に対する割合0.2%）、受託研究費972,000円（2014年度、研究費総額に対する割合0.6%）249,000円（2016年度、研究費総額に対する割合0.2%）もある。</p>					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

<b>点検・評価項目</b> <small>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</small>	<b>現状の説明</b> <small style="color: red;">C列の点検・評価項目について、必ず記述してください</small>	<b>評価</b> <small>効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述</small> <small>改善を要する点・理由 F列の現状から記述</small>		<b>発展計画</b> <small>「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目</small> <small>「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述</small> <small>(中長期的対応) H列にあれば記述</small>		
	<b>教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性</b>					
b ●教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。  <small>※社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動を指します。</small>  <small>※『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」（3）教育方法で評価する。 【600～800字】</small>	これまで、継続的に、教育や学生指導に関わる教員の資質向上のために、学生相談の専門家（臨床心理士）や司法の専門家（弁護士）を招いて、「問題ある学生対応のための研修会」「個人情報保護のための研修会」「セクシャルハラスメント防止のための研修会」を行ってきたが、2016年度も6月20日に「その説明、本当に伝わっている？—説明における認識の不一致—」、11月7日に「障害者差別解消法施行に伴う私立大学の対応」についての研修会を開催した。また2017年度から100分授業が始まるのに備え、分かり易いシラバスを作成するために「2017年度シラバス作成について」と題して研修会を行った。  高等教育、管理運営に関する教員の資質向上として、国庫助成推進委員会が存在しており、担当委員が学内の研修会の他、全国組織の研修会に参加している。また、専任教員の国際交流も非常に活発で、海外の大学・研究機関との学術交流や招聘講演を通じて、海外の大学・研究機関の在り方にも通暁している。  さらに毎年8月末には、役職、各種委員会委員長、教務委員を交えた研修会を開催し、教育や学生相談・研究・社会貢献・高等教育、管理運営について、総合的に理解を深めるために意見交換および議論を行っている。2016年度は8月30日に開催された（出席者26名）。  また、2016年度教育懇談会開催時（4月23日）、2017年度教育懇談会開催時にはFD委員会と連携をして、「人を惹きつける話し方—古典落語を通して—」という演題で専任教員・兼任教員向けに落語講演を実施し（専任兼任教員合わせ230名参加）、教員の資質向上のために独自の取り組みを行っている。					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか</b>						
a ◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】	① 教育目標として学則別表9に「人材養成その他の教育研究上の目的」を定めている。  ② 課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件を明確にした「学位授与方針」を、目指すべき人材像、具体的到達目標として教授会において学科別に定めている。					
<b>(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか</b>						
a ◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】	学位授与方針に示した修得すべき成果を達成するため、教育課程の編成理念、教育課程の編成方針を明らかにした「教育課程編成・実施方針」を教授会において定めている。					
<b>(3) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が, 大学構成員(教職員及び学生等)に周知され, 社会に公表されているか</b>						
a ◎公的な刊行物, Webサイト等によって, 教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	① 教職員については, 学部便覧(7~8頁)で公開している。  ② 学生についても, 学部便覧(7~8頁)で公開している。新入生に対し新年度開始時に実施されるガイダンスの際に配付され, 教職員より内容の説明を実施している。また, 毎年4月初旬に1年次と3年次に行われるガイダンスを通じて, 学生にも周知徹底を図っている。  ③ 社会一般への公表は, 学部ホームページにおいて教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針を掲載している。					
b ●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の認知状況を確認していること。 【約200字】	「明治大学における学びに関するアンケート」では, DPやCPの認知度は29.6%であり, 全学平均並みであった。また, これらを知る機会としては, 本学ホームページ・シラバス・履修ガイダンスが同じ割合であった。現在は履修ガイダンス等の機会を活用し, これらの認知度を高める努力をしている。					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準 4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。						
C列の点検・評価項目について、必ず記述してください						
効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述						
改善を要する点・理由 F列の現状から記述						
「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目						
「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述						
<b>(4) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか</b>						
a	<p>●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり, 責任主体・組織, 権限, 手続を明確にしているか。また, その検証プロセスを適切に機能させ, 改善につなげているか。 【約400字】</p>	<p>教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するため, 現職の教務主任および学部役職(学科長, 教務主任, 学生部委員)等の経験者計7名からなる「自己点検・評価委員会」を設置し, 各年度の報告書の作成とともに定期的に理念と現況の整合性を検証し, 問題点の改善に努めることで適切性の維持を図っている。また, 恒常的に3つのポリシーの適切性が検討されているが, 2017年3月6日開催の教授会でも検証を行い, 現状のまま適切である事を確認した。</p>				

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか</b>						
<b>必要な授業科目の開設状況</b>						
a ◎CPに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【300字程度】	文学部は、「『人間とは何か』という問題に多角的に取り組むため、十分な専門知識と幅広い教養を身につける」ことを目指し、カリキュラムの編成を行っている。「文学科」には6専攻（日本文学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学、演劇学、文芸メディア）を、「史学地理学科」には5専攻（日本史学、アジア史、西洋史学、考古学、地理学）を、「心理社会学科」には2専攻（臨床心理学、現代社会学）を配置し、この3学科13専攻の学問領域を基本的な履修区分としつつ、総合的な教養力や学生の興味関心や能力に細かく対応し、バランスのとれた授業の配置を行っている。これに加えて「心理社会学科」内に「哲学専攻」を新設すべく準備を進めており、これによって更に充実したカリキュラム編成を進めている。 総開設授業科目は736科目であり、教養共通科目137科目、外国語科目75科目、専門教育科目524科目である。専門科目は演習や講読、卒業論文等からなる専攻必修科目のほか、専攻選択科目、共通科目を設け、学科ごとに目標に応じて必要単位数が定められている。					
b ●CPに基づき、必修科目を開設していること。 【200字～400字程度】	文学部は、教育課程の編成・実施方針において、「『人間とは何か』という問題に多角的に取り組むため、十分な専門知識と幅広い教養を身につけることを目指し」、カリキュラムを編成している。すなわち、本学部を構成する3学科13専攻の学問領域を基本的な履修区分として必修科目を定めるとともに、総合的な教養力や学生の興味関心や能力に細かく対応した、バランスのとれた授業配置を旨としている。さらに、領域横断的な教養科目も多彩に設置するほか、学生が所属する専攻以外の必修科目を選択科目として履修することも認めている。 上記の目的を達成するために、本学部には教養共通科目、外国語科目とともに、演習や講読、卒業論文等からなる専攻必修科目、そして専攻選択科目、共通科目が設けられ、学科ごとに目標に応じた必要単位数が定められている。					
c ◎幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること。 【200字～400字程度】	開設科目数の構成は一般教養的授業科目18.6%、外国語科目10.2%、専門教育的科目71.2%であり、専門教育的科目の割合が1/2以上に達するが、これは本学部の教育の中核が13専攻それぞれの少人数クラスに重点を据えていることと、各専攻がそれぞれの学問分野の特性に応じて多様な選択肢を専攻内に提供しているためであり、全体的には教養教育の充実も十分に考慮されている。共通選択科目を24単位以上必修とすることで、学生の選択の幅を広げ、自らの専攻科目とは異なる領域分野を積極的に学ぶよう学生に課している。 選択科目として「留学準備講座」「海外授業シミュレーション」「地域と文化」を開講し、海外留学促進に向けての充実化をはかっている。					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
順次性のある授業科目の体系的配置（履修体系図やコース系統図の明示，科目相関図，4年間の履修モデル，適切な科目区分など）						
d ●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。（学生の順次的・体系的な履修への配慮） 【約400字】	順次的・体系的な履修への配慮として，専攻ごとに多様な選択科目を設置し，学科・専攻ごとの科目の体系や履修モデルは，「各専攻カリキュラム体系図」として便覧，文学部ガイド，本学ホームページで図示されている。					
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性						
e ●教育課程の適切性を検証するにあたり，責任主体・組織，権限，手続を明確にしているか。また，その検証プロセスを適切に機能させ，改善につなげているか。 【約400字】	<p>① 2013年度には教育課程の検証プロセスとして，語学教育の改善，共通選択科目の再編，導入教育の拡充等，カリキュラムの抜本的な見直しを含む長期的な課題については「カリキュラム検討委員会」において協議された。7月8日に2015年度新カリキュラムについての答申がなされた。この中で，共通選択科目の改定，「留学促進プログラム」の科目群の拡充，「キャリア・デザイン」の新設，「英語」の改編等，新カリキュラムに関する基本的な考えが示され，「教務課題検討委員会」では，この答申に基づいてその具現化を図った。「教務課題検討委員会」は2015年度に7回開催され，主に国際交流関係科目「海外短期留学関係科目A～D」，「海外現地研修A・B」の設置について検討した。その結果，前者は2016年度に開講された。後者についても，2017年度から開講される予定である。</p> <p>② 2016年度には新専攻設置準備委員会が合わせて7回開催され，その中で哲学専攻の規模，特色，そして3つのポリシー（アドミッション，カリキュラム，ディプロマ）等が具体的に検討された。</p> <p>③ 「大学における学びに関するアンケート」における授業科目の体系について，72.8%が肯定的意見であるため，今のところ抜本的な見直しは行わない。しかし，肯定的意見を示さなかった回答者が3割弱存在するため，今後はアンケート等を活用してカリキュラムに対する不満足の原因を検討する必要性も生じるであろう。</p>					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか</b>					
<b>特色ある教育プログラムの内容とその効果（当該学部等固有のプログラムやGP探採事業など）</b>					
a ●学部の特色、長所となるプログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学院設置科目の履修を認め、8単位を上限に卒業要件に含めている。また、16単位を上限に大学院の単位の先取り履修を認めている。このほか、英語教職専修のプログラムなどキャリアデザインのプログラムも設定されている。</li> <li>○「海外ゼミ合宿制度」実績：2011年度2件21名、2012年度4件27名、2013年度1件7名、2014年度3件25名、2015年度2件13名、2016年度3件34名といった具合に推移している。2014年度には初めて欧州圏であるフランスでの海外ゼミ合宿を実施し、2016年度にもロンドンで合宿を行った。これらの実績に基づき、2017年度から授業科目「海外現地研修」を新設し、発展的なプログラムとして充実させることを決定した。</li> <li>○語学研修も含めた短期留学（融合型プログラム）、2015年度1件12名、</li> <li>○西洋史学専攻では、1・2年生を対象に「大使館員の話の聞く会」を開催した。セルビアの大使館員やポーランドの研究者が自国の歴史・文化・現状について報告し、学生との意見交換を図った。また、ハンガリー大使館主催の「ハンガリー革命60周年」の会に招待され、1～4年生の学生15名が表記のテーマに関する報告を聞き、大使館員らと交流を図った。</li> <li>○考古学専攻、地理学専攻、臨床心理学専攻、現代社会学専攻は実習を必修科目に含めており、現場に即した知識の習得を実践している。</li> <li>○日本史学専攻は新入生を対象にした明治大学博物館の見学会を実施し、学芸員の解説のもとで古文書を扱う体験を設定している。</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学部間共通総合講座における「明治大学シェイクスピアプロジェクト」によるシェイクスピア劇上演の企画運営には、演劇学専攻の教員と学生が中心で参画している。</li> <li>○文学部学生のキャリア支援プログラム「キャリア・デザイン」は54名の学生が履修している。</li> <li>○フランス文学専攻によるパリ・ディドロ大学での短期語学研修、15名</li> <li>○演劇学専攻では、演劇作品の劇場での鑑賞会などを通して、演劇の上演を多角的に考察する機会を設けている。また、劇作家・演出家を講師とする「演劇・戯曲研究」のゼミを設けている。その他、本学部の特徴的なプログラムとしては以下のものがあげられる。英米文学・ドイツ文学・フランス文学の各専攻は、TOEFL-iBT<sup>®</sup>80以上、独検準1級、仏検準1級をStep4に位置づける目標レベルを示した「ランゲージプログラム」を設けている。</li> </ul>				

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由	改善を要する点・理由	「効果が上がっている点」に対する発展計画	「改善を要する点」に対する発展計画	
		F列の現状から記述	F列の現状から記述	G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>学部間等における国際的な教育交流の内容とその効果 (学部間協定, 短期海外交流など)</b>						
b ●学部の特色、長所となる国際化プログラムが編成されているか。	① 学部間協定 ・学部間協力協定及び学生交流覚書 フランス ボルドー・モンテーニュ大学 2016年5月 ・English Language Program の実施に関する協力協定 カナダ トロント大学生涯学習学部 2016年10月 ②学部間協定 (派遣) ・「北京師範大学歴史学院」0名, ・「ビーレフェルト大学言語学・文学部」2名, ・「バンベルグ大学人文学部」2名, ・「高麗大学校文科大学」0名, ・「ボルドー・モンテーニュ大学」2名, ・「台湾師範大学文学院」0名, ③学部間協定 (受入) ・「ビーレフェルト大学言語学・文学部」1名, ④海外短期研修 (派遣) ・「春期トロント大学短期語学研修プログラム」6名, ・「パリ ディドロ大学短期語学研修プログラム」15名,					
	⑤ 単位互換制度 ・ テンプル大学ジャパンキャンパス, 送出し3名, 受入れ6名 ⑥ 「留学準備講座」, 「海外授業シミュレーションA・B」, 「地域と文化C・D」 (特任教授) ⑦ 日本語教員養成プログラム開講科目 ・ 「日本語教育演習A」2017年度7名 (5月1日現在) ・ 「日本語教育演習B」2017年度7名 (5月1日現在) ・ 「日本語教育実習I」2017年度6名 (5月1日現在) ・ 「日本語教育実習II」2017年度4名 (5月1日現在) ・ 「日本語音声学 (春・秋各1コマ)」2016年度 172名、 2017年度13名・13名 (5月1日現在) ・ 「日本語史 (秋のみ)」2017年度39名 (5月1日現在) ⑧ 2016年度より「海外短期留学関係科目A～D」を新設し, 参加したプログラムの内容に応じて4単位まで認定することとした。					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 教育方法及び学習方法は適切か</b>					
<b>教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性</b>					
a ◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること。 【約200字】	①・②いずれの専門分野においても、講義科目と演習科目を組み合わせ、段階的に高度になることを意識した科目配置がなされている。特に演習は、少人数クラスは実践教育を核とする文学部の最重要科目であり、適正規模（1クラス20名以下）を確保すべく、各専攻においてクラスの実態に即した適正配分を心がけている。文芸メディア専攻において、文字と人間との関わりを具体化するため、「卒業論文」に代えて、小説などの「卒業制作」を認めている。 ③実習科目は、日本史学専攻ではゼミ合宿を通じて現場で歴史を理解する機会を与えている。英米文学専攻、アジア史専攻、現代社会学専攻では、海外ゼミ合宿により国際性を高めている。考古学専攻では、明治大学博物館で遺物を通じて学習するとともに、発掘現場での実習を実施している。地理学専攻では、フィールドワークを実習として設定し、応用力と現場体験を通じて生きた教養を身につけさせている。臨床心理学専攻ではカウンセリングなど実習を通じ、臨床心理学の知識と体験の融合を図っている。現代社会学専攻では現代社会と人間との関係を現場で学ぶため、震災復興、多文化共生、有機農業等の現場に赴くフィールドワークによる実習を実施している。				
<b>履修科目登録の上限設定、学習指導・履修指導（個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等）の工夫</b>					
b ◎1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置が取られていること。（学部） 【約200字】	① 2015年度以降入学者から年間の履修単位について48単位（半期30単位を越えないものとする）を上限と定めている。 ② 1年次の平均履修単位数は49単位で、48単位を越えて履修している学生の割合は36%である。これは、履修上限単位数に含まれない集中科目や卒業要件外科目（資格課程科目など）を履修しているためである。 2～4年次の平均履修単位数は、2年次49単位、3年次43単位、4年次16単位である。履修の不均衡を改善するために、2015年度入学者からCAP制を導入した。 ③ 3年次への進級は40単位以上の修得を条件として定めている。つまり、1・2年次の基礎的な学修を一定以上済ませない限り、専門的な教育は受けられない。				

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> <p>c ●履修指導（ガイダンス等）や学習指導（オフィスアワーなど）の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約2000字～4000字】</p>	<p>① 履修指導は入学時における総合ガイダンスのほか、専攻別に学年ごとにガイダンスを4月に実施し、履修上の注意事項を周知している。全学を対象に学習支援室やTAの配置により、学生の発展意欲の向上や学習上の悩みなどへの相談に対応している。このほか、1年次から少人数ゼミを必修科目として全専攻に配置されており、担当教員により綿密な履修指導がなされている。</p> <p>② 和泉キャンパスにティーチングアシスタントを配備し、1・2年生を対象とした履修相談を実施している。さらに、2015年度より成績不良学生を対象とした修学指導を開始した。修学指導では事前カルテを対象学生に記入してもらい、今後の学習の指針について、指導教員と学生がともに情報を共有出来るよう工夫をしている。</p> <p>③ 授業の出席等は個々の教員に委ねられており、学習ポートフォリオ等を活用した組織的な学習実態の把握は行っていない。</p> <p>④ 「明治大学における学びに関するアンケート」設問17では、ガイダンスや履修指導の満足度が72%（大学の全体平均並み）であったため、比較的良好と史料される。</p>	<p>1年次から少人数のゼミを配置することにより、個々の学生に対して教員の目が行き届きやすい。これによって学生の個性に応じた丁寧な指導が可能になるなど、教育の質的向上に大きく寄与している。</p>		<p>少人数のゼミは極めて効果的であるが、現在の規模が適正であるのか、カリキュラム検討委員会等で継続的に検討する。</p>		
<p>学生の主体的参加を促す授業方法（学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等）</p>						
<p>d ●各授業科目において、学生の主体的な学びを促す教育（授業及び授業時間外の学習）方法を採用しているか。 【約4000字】</p>	<p>学部全体として少人数ゼミが主体的な学びの場を提供しており、ゼミ合宿や博物館見学などフィールド学習も積極的に行っている。</p> <p>○日本史学専攻では、史料に対する理解を深めるため、大学院生（助手）によるサブゼミナールを定期的実施し、学生の自主的・主体的学習の促進を図っている。</p> <p>○アジア史専攻では、教室で学んだ現場を実際に見聞するために、課外で東京ジャーミーや公益財団法人東洋文庫見学会等を実施している。</p> <p>○考古学専攻では教室で得た教養を実践するため、明治大学博物館で遺物を通じて学習するとともに、発掘現場での実習を実施している。</p> <p>○地理学専攻でも教室の中で得た地形図の使用や統計法を実践するため、地域やテーマを設定し学外での地理学実習を実施している。</p> <p>○現代社会学専攻では、現代社会学実習の授業において、地域おこしや有機農業への体験的参加を通じて、現状や問題点について実践的に学習する実習を実施している。</p> <p>○演劇学専攻を基盤とする「明治大学シェイクスピアプロジェクト」によるシェイクスピア劇の上演会が毎年実施されている。</p> <p>○学生を近郊の博物館や史跡・遺跡（原始～現代）に引率し、複合的な視角で歴史を読み解くことの魅力を体感する機会を増やすため、特定課題推進費による学外実習助成を実施している。</p>					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか</b>						
a ◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること。【約300字】	① 全学部統一様式のシラバス作成を全教員に依頼し、半期14週の枠組みにおいて各回の講義内容を個別に記載し、「Oh-o!Meijiシステム」上でも閲覧可能となっている。 ② 本学部では2011年度よりシラバス冊子は事務室での閲覧と教職員の便宜のみに対応して作成し、学生に対しては「Oh-o!Meijiシステム」を通じてパソコン、タブレット、スマートフォンから閲覧できるようにしている。					
b ●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。【約400字】	シラバスと授業内容の整合については、シラバス作成時に全教員に準拠を求め、具体的な授業計画と成績評価法などを明示するように求めている。また、兼任講師に対しては、教育懇談会の中でシラバス作成上の注意のみならず、記載された内容と授業との間に整合性をもたせるよう注意を促している。実際の整合性は、毎学期に実施している授業改善アンケートにおける「授業で教えられたことは、シラバス等で授業前に示されていた学習目標と合致していますか」という問いに対する学生の回答状況から確認することができる。学生(文学部)の満足度(最も高い評価をつけた割合)は、2015年度秋学期の調査ではそれぞれ42.0%、28.9%である。 なお、上記アンケートから得られた学部全体の結果については、各教員がそれを参照し、自らの授業づくりに役立てることを目的に、2013年度より文学部事務室にて閲覧できるようにした。					
c ●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。【約400字】	① シラバス作成にあたっては、教務主任からの依頼に基づき、文学部事務室の担当職員が学期ごとにその記載内容を点検している。記載に不備があった場合は、各教員に個別に連絡し、記載内容を改めるように依頼している。この他、兼任講師を交えた教育懇談会においてもシラバスの記載内容について注意を促す等の配慮をしている。 ② 「授業改善アンケート」の結果は当該授業担当の教員にフィードバックされる。シラバス改善については、アンケート結果に基づいて、それぞれの教員の責任のもとで行われる。現状では、委員会等がアンケート結果を組織的に検証することはない。 ③ 「大学における学びに関するアンケート」では、「1週間の授業外学習時間」は、20.8%が1時間未満であり、単位制度の想定する時間数を下回っている学生層が一定数存在する。また、「科目の予習・復習を行う時」にシラバスを参照する学生は、33.6%であることを考え合わせると、事前・事後学習に関する指示が不明瞭であることが窺われる。		一部の学生は授業外の学習時間が不十分であるため、適正な改善策を模索することが課題である。		履修科目数と学習時間の相関性を検討するなど、その背景を丁寧に探ってゆく。	2017年度から新たに100分授業を導入したが、これによって授業外の学習時間がどのように推移したのか、継続的に調査することが求められる。

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか</b>						
a ◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約200字】	① 成績評価についてはGPA制度を導入しており、基準については便覧に明記している。 ② 成績分布に関して、3学科において、文学部の平均GPAは2.50、史学地理学科は2.42、心理社会学科は2.67となっている。					
<b>(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善(授業に関わるFD活動)に結びつけているか</b>						
a ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約400字】	○「教室会議」 各専攻 定期的開催 「教科書選定会議」：教育内容や方法、教育の質の均質化等の検討 ○「教育懇談会」 4月に兼任講師をも交えて実施、専攻を超えた授業改善をめぐる話し合い ○「FD研修会」 教授会冒頭で実施、2016年度研修会テーマ「その説明、本当に伝わってる?—説明における認識の不一致—」(講師：伊藤貴昭専任准教授)、教授会出席者90名(2016年6月20日) ○「ゼミ幹事会」 学生の意見を教育内容の改善に生かすために開催 日本史学専攻、毎年10月頃、ゼミの代表者と専任教員で打合せの場を設け、日頃の学習における問題点等の意見交換を行っており、改善が必要なものは反省させるような取組みをしている。					
b ●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	○授業改善アンケート 全学のFD専門部会主導の授業改善アンケートの結果を教員個人が授業改善に取り入れ、学生アンケート結果のフィードバックをもとに個々の教員が授業改善を行っている。 <2016年度アンケート実績> 春学期対象科目数1,028、実施科目数272(実施率[科目ベース]26.1%)、対象教員数107 秋学期対象科目数1,020、実施科目数252(実施率[科目ベース]24.7%)、対象教員数107 ○「留学生昼食会」 毎年6月、留学生の視点から授業に対する意見や希望等を聴取。2016年度にはこの昼食会に12名の留学生が参加し、さまざまな意見が出された。これらの意見や要望は、次年度以降の教育や指導にできる限り活かせるよう努めている。					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	<b>C列の点検・評価項目について、必ず記述してください</b>					
<b>C</b> ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	<p>教育内容や方法の改善に関する対応はFD委員会が行なっている。また教務課題検討委員会では、専攻ごとの教育内容の特徴を考慮し、問題点を十分に集約したうえで、カリキュラム全体の調整を行っている。</p> <p>③ 2015年度に実施された「大学における学びに関するアンケート」によると、講義については82.4%の回答者が「満足」あるいは「やや満足」といった肯定的意見、同じく、ゼミナールや演習については89.6%が肯定的、また学生がプレゼンテーションをする授業については80.0%が肯定的な意見を示した。これらの結果が示す通り、講義やゼミナールについては、学生度の満足度が相当に高いことがうかがえる。一方、「TA等の教育補助者の支援のある授業」に関しては、この種の授業の絶対的な数が少ないせいか、肯定的な意見は40.0%と低かった。</p>				年度初めの学年別ガイダンス等でTAの積極的な活用を促すことによって、学習支援の有効性を高めてゆくことが必要とされる。	TAの支援が必要な科目、ならびにTAの割り当て時間の適性さについて、時間を掛けて検討してゆく。
	<p>本学部の定めるDPは、「教養としての知識」、「異文化を理解する知識」、「現代社会を理解する知識」、「国際的課題に関する知識」、「専攻分野の専門知識」、「調査、実験ができる能力」、「外国語の運用能力」、「論理的な思考方法・能力」、「プレゼンテーションの方法・能力」、「協調的に人間関係を構築する力」、「問題点を発見し、分析する力」である。</p> <p>「大学における学びに関するアンケート」において、身につけた学習成果・能力と授業形態・方法の関係性を分析した結果、ほとんどの項目について、「プレゼンテーション」の実施が大きく貢献していることが確認された。一方で、「定期的な課題」、「課題添削・返却」、「小テスト」はその有効性が十分に認識されていないことが判明した。</p>					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか</b>						
b ●学位授与にあたって重要な科目（基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など）の実施状況。 ●学習成果の「見える化」（アンケート、ポートフォリオ等）に留意しているか。 【約400字】	① 学習の成果として学位授与にあたり重視する科目として、各専攻とも、1年次から設定された「演習」と「卒業論文」を必修としており、卒業論文の合格には厳正な審査が行われる。また、考古学専攻、地理学専攻、現代社会学専攻ではフィールドワークを含めた実習を卒業要件に含めている。 ② 学習成果の可視化に留意している事項として、カリキュラムにおいて実習を重視する専攻では、「実習報告書」の作成を必須としている。外国文化を専門とする専攻では、海外でゼミ合宿を実施したり、協定校に留学生を派遣したりすることにより、それらが卒論のテーマ決定に有効に機能している。多くの専攻においては、卒業論文の概要を『卒論要旨集』として冊子にまとめ、卒業生ならびに次年度の4年生に配布している（2016年度は文学部全13専攻中9専攻が実施）。	『卒論要旨集』の配布を通じて、次年度の4年生はいち早く卒論の構想を立てることが可能になっており、体系的な学習に大きく貢献している。		『卒論要旨集』の発行部数を検討するなど、1、2年生を含めて、早い時期から希望者に配布できるよう準備を整える。		
●学位授与率、修業年限内卒業率の状況	4年生の2016年度卒業生の学位授与率は在籍858人中712人で、83.0%であった。 学科ごとの割合については、文学科は84.2%、史学地理学科は78.2%、心理社会学科は92.3%であった。 なお、修学年限内卒業率は、学部全体で83.3%であった。					
●卒業生の進路実績と教育目標（人材像）の整合性があるか。	2017年3月の就職実績は教育・学習支援業の8.5%が特徴的であるが、情報通信業の14.4%を筆頭に公務員を含めた一般的な職への就職が普通となっており、業種に大きな偏りはない。総合的な教養力や語学力を効果的に活用し、実社会からの期待に応じている。					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 ●学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）を実施しているか。 【約400字～600字】	① 学部独自の学生アンケートは行っていない。 ② 就職先の評価、卒業生評価については行っていない。 ③ 就職先の評価、卒業生評価についてはゼミ出身の卒業生との懇親会を開いたり、就職支援講座で卒業生に講演をしてもらうなどの機会を通して、きめ細やかな情報の収集に努めている。					
●学生の自己評価を実施しているか。 【各約300字】	毎学期に実施している授業改善アンケートにおいて、学生の授業に対する達成度を2つの調査項目から学生（全学）の満足度を図っている。「この授業で新しい知識や考え方を得ることができましたか」について、2015年度春学期及び秋学期の調査ではそれぞれ79.6%、77.2%であった。また、「あなたのこの授業に対する自己採点は何点ですか」について、同比率はそれぞれ68.2%、68.4%であり、これらのことから主体的に授業に臨み、シラバスに定める到達目標を達成していることが見て取れる。					
	「明治大学における学びに関するアンケート」では、学習成果の自己評価を調査しており、「入学して、自分自身が成長したか」の項目について、成長または少し成長した、の割合が約80.8%であるため、学生は成長を自覚していることが読み取れる。なお、問21に関連し、本学部のDPに定める具体的到達目標である「異文化を理解する知識」、「現代社会を理解する知識」、「専攻分野の専門知識」は肯定的意見の割合が非常に高い。これは、本学部の掲げるDPが日々の教育に浸透し、適切に機能していることを示している。					
	本学部の定めるDPは、「教養としての知識」、「異文化を理解する知識」、「現代社会を理解する知識」、「国際的課題に関する知識」、「専攻分野の専門知識」、「調査、実験ができる能力」、「外国語の運用能力」、「論理的な思考方法・能力」、「プレゼンテーションの方法・能力」、「協調的に人間関係を構築する力」、「問題点を発見し、分析する力」である。 「大学における学びに関するアンケート」において、学生の成長感と学習成果（DP）の関係性を分析した結果、学生が成長したと感じた能力として「教養としての知識」、「論理的な思考方法・能力」に相関がみられた。一方で、とくに「外国語の運用能力」は相関がないことが読み取れる。					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(2) 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか</b>						
a ◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。  ◎（研究科）学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を、あらかじめ学生に明示すること。 【約2000字】	文学部便覧に、卒業に必要な単位として128単位以上修得した者に「学士（文学）」を授与すると明示している。また入学時の新入生ガイダンス及び毎年各学年に実施しているガイダンスにおいてもその都度、3年次進級の条件や卒業要件、ならびに卒業論文の水準について十分な説明を行っている。学位授与にあたり、卒業要件の単位の充足と卒業論文提出が条件となっていることと、未完成の論文及び指定提出時刻に遅れた論文は受理しないことを便覧に明記している。					
b ●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。 【約6000字】	卒業論文の単位認定にあたっては、指導教員による厳格な指導や「中間報告」を経て、各専攻内で「面接」が実施される。そのうえで卒業要件の単位を修得した学生は「教授会」での卒業論文受理に関する厳正な審査を受け、承認されることにより学位の授与がなされる。多くの専攻では『卒業論文要旨集』が作成され、学位授与の適切性を公表している。					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか (「AP」の全文記述は不要です)</b>					
<b>「求める学生像」と「当該課程に入学するにあたり、習得しておくべき知識等の内容・水準」の明示</b>					
a ◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。 ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。 【約400字】	① 文学部の入学者の受入方針において、求める学生像として4点を定め、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示している。  ② 入学者の受入方針の公表について「入学試験要項」及び大学ホームページにおいて公開し、受験生を含む社会に幅広く公表している。				
<b>(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか</b>					
a ●学生の受け入れ方針と入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。(公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。 【約800字】	本学部では入学者の受入方針に基づき多様な人材を確保するため、2017年度も次のとおり複数の入学形態及び試験方法を実施している。 一般入試として、 ①一般選抜入試(3科目型) ②大学入試センター試験利用入試(3科目方式および5科目方式) ③全学部統一入試(3科目型)を実施している。  特別入試として、 ④自己推薦特別入試(第一次書類選考、第二次小論文・面接による二段階選考) ⑤社会人特別入試(小論文及び面接) ⑥外国人留学生入試(第一次書類選考、第二次口頭試問による二段階選考) ⑦スポーツ特別入試(書類選考及び面接)を実施している。推薦入試として ⑧指定校推薦入学試験(書類選考と面接) ⑨付属高等学校推薦入試(面接)を実施している。				

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか</b>						
<b>収容定員に対する在籍学生数比率の適切性</b>						
a ◎学部・学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である。 ◎学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である。 ◎学部・学科における編入学定員に対する編入学生数比率が1.00である(学士課程)。 【約200字】	① 過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の学部平均は1.09で、学科ごとの比率は、文学科1.08、史学地理学科1.10、心理社会学科1.10である。  ② 2017年度の収容定員は4学年で3,100名、在籍学生数は3,592名であり、収容定員に対する在籍学生数比率は1.16である。学科ごとの比率は、文学科1.16、史学地理学科1.15、心理社会学科1.18である。  ③ 外国人留学生の数は15名で、全体の2.0%である。今後も外国人留学生数の増加に向けて努力していきたい。					
<b>定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応</b>						
b ◎現状と対応状況 【約200字】	2017年度について学部平均の超過率が1.16となり、入学定員に対する入学者数比率の学部平均は1.10となったため、当年度については、語学・演習等の授業について増コマ等で対応することで、適切な学習環境を整備した。					
<b>(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか</b>						
a ●学生の受け入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【400字】	入学者の受け入れ方針の運用の適切性および入学試験との整合性について教授会で審議をしている(2016年度は2017年3月6日の教授会にて審議)。合格者の決定については、入試実施委員会、役職者会、学部運営協議会、の複数の段階で精査をしている。入学試験の内容・選抜方法は、常設の入試制度検討委員会(2016年度は全3回開催)及び各年度の入試反省会(2016年度は2017年3月23日開催)の議論に基づき教授会で審議・決定される(2016年度は2017年1月28日開催の教授会にて審議)。2015年度は「入学者の受け入れ方針」上、類似した位置を占めていた帰国生特別入試と自己推薦特別入試の一本化を行なった。2015年度は、大学入試センター試験利用入学試験における後期日程を廃止し、前期日程へ一本化した。2016年度は、大学入試センター試験利用入学試験について5科目方式の選択科目として理科を追加した。2016年度は、大学入試センター試験利用入学試験について5科目方式の選択科目として理科を追加した。2016年度は、大学入試センター試験利用入学試験について5科目方式の選択科目として理科①を追加した。2015年に行ったアンケートでは、受験時に本学部が第一志望であった学生は38.4%、第二志望が39.2%、それ以外が21.6%であった。この結果を冷静に受け止め、入試制度改革や授業の改善などに活かしたいと思う。					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準6 学生支援

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか</b>						
a ●修学支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約2000字】	① 修学支援方針は「文学部 2016年度教育・研究に関する年度計画書」(2015年6月作成)(81頁)において定めている。 ② これは学部内に設置した教務課題検討委員会等、各種委員会の答申を年度計画に反映した後、教授会にて審議・承認されており、教職員共に共有されている。 ③ この方針は明治大学ホームページにも掲載され、学生に対しても公表されている。					
b ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約4000字～8000字程度】	① 留年者・休退学者の状況把握と対応 ・教授会にて学籍異動についての審議・承認が行われている。2016年度の教授会において、523件の学籍異動について取り扱った。 ・クラス担任制度をとっており、専攻による専任教員によってきめ細かな修学およびその他の支援が行われている。 ・成績不良者については、所属専攻の専任教員による面談が行われている。面談の対象者は、275名(春学期46名、秋学期229名)であった。 ・1・2年生を主たる対象として、外国語や専門科目の講義内容の理解が十分でない学生、および修学に関するその他の疑問や不安を抱える学生に、学習支援室において学部助手およびTAが適切な指導と助言を行っている。2016年度春学期は35名で週183時間、秋学期は33名で週185時間を担当した。 ・退学理由の把握については退学届を受理する際に可能な範囲で事務職員が事情を聴取し、必要があれば役職者や教授会に報告している。 ・不登校学生には、授業等を通して当該学生の出席状況を把握しているクラス担任等教員からの要請により、事務職員が掲示や電話による呼び出しなど積極的にコンタクトを試み、場合によって教員も直接対応している。	標準修業年限卒業率は、大学内平均の82.9%より+0.4%、標準修業年限退学率は、大学平均の3.0%より-0.6%、また入学後一年以内退学率は、大学内平均の1.3%より、-0.2%という結果から、学内に見れば、文学部の取り組みが一定の効果があったことを示していると言えるであろう。		標準修業年限卒業率、標準修業年限退学率、入学後一年以内退学率について、役職者内にて情報共有し、留年者や休退学者が増えていくことのないように、動向を把握していくこととする。		
	② 障がいのある学生に対する措置・仕組み ・障がいに応じた支援体制を教務主任及び学生の所属専攻教員が対応し、所属専攻学生および学部事務室の協力を得て作っている。					
	③ 外国人留学生に対する措置・仕組み ・国際交流委員会が主体となり、「文学部外国人留学生特別支援」としてチューター制度を設けたが、和泉学生支援のサポートと併合し、2015年度に廃止した。 ・フランス文学専攻やドイツ文学専攻では、専攻の学生が積極的に留学生との交流を図り、個別の相談に対応している。					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
	<p>④ 学生支援の適切性の確認方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミナール会合費を活用し、ゼミナール単位で懇談会を実施している。</li> <li>・国際交流委員会が主体となり留学生を対象として、昼食会を実施している。2016年度は12名の留学生が参加した。</li> <li>・学生間の交流を計るために、学生が主体となって運営する文学部スポーツ大会を実施している。この文学部スポーツ大会は、教授会報告事項として学部教員に周知している。実施にあたっては文学部職員がサポートし、運営費を援助している。</li> </ul> <p>⑤ 成績不振学生への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年、学期ごとの単位修得ラインを設定し、単位修得ラインを満たせなかった学生とその保護者に対し、学年主任との面談通知を郵送し、面談を実施。</li> <li>・予定していた面談を欠席した学生に対し、電話で欠席理由を確認しフォローをしている。</li> </ul>					
<b>(2) 進路支援に関する方針を定め、学生への支援は適切に行われているか。</b>						
a	<p>●進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】</p>	<p>① 進路支援方針は「文学部 2016年度教育・研究に関する年度計画書」(2015年6月作成)(81頁)において定めている。</p> <p>② これは学部内にキャリア支援委員会を立ち上げ、進路支援の適切な方法を検討・模索している。なお、方針は年度計画に反映した後、教授会にて審議・承認されており、教職員共に共有されている。</p> <p>③ この方針は明治大学のホームページにも掲載され、学生に対しても公表されている。</p>				
b	<p>◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生を対象とした就職ガイダンス講座「就職活動スケジュール理解と対策」(出席者約200名)、「文学部生のための自己分析講座」(出席者約50名)、「就職活動直前ガイダンス」(出席者約200名)の3回を実施した。</li> <li>・2013年度より「インターンシップ」について単位認定することとした。</li> <li>・2015年度よりこれまでに開催していた「進路選択支援講座」を「キャリア・デザイン」とし、単位認定することとした。</li> </ul>				

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主として3年生を対象としニュース時事能力検定試験の受験料助成（学生負担2,000円のみ）を行っている。</li> <li>・外国語等検定試験受検料の助成を行った。対象となる試験は11種で、203名の学生に対し、助成を行った。</li> <li>・2013年度以降入学者に対し、グローバル人材育成プログラム科目（短期海外実習・海外実習・長期海外実習・海外実習課題研究）の履修を認め、2015年度以降入学者は卒業に必要な単位数にも含めることとした。</li> <li>・2014年度より「留学促進プログラム」を実施することとした。</li> <li>・2015年度より「日本語教員養成プログラム」を発足し、「日本語史」と「日本語音声学」を単位認定することとした。</li> <li>・2016年度より「海外短期留学関係科目A～D」を新設し、様々な海外留学プログラムでの学習を参加したプログラムの内容に応じて4単位まで認定することとした。</li> <li>・2017年度より「海外現地研修A・B」を新設し、海外経験の機会を幅広く提供し、グローバル人材の育成を促進することとした。</li> <li>・2017年度より「日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ」を新設し、日本語学校における教員の資格要件変更に対応することとした。</li> </ul>					
	<p>「明治大学における学びに関するアンケート」問28及び29において、進みたい方向を決めている割合、さらには行動している割合は、それぞれ67.2%、59.2%であり、進みたい方向が決まっている学生は比較的そのまま行動へとつながっていることが伺える。したがって、進みたい方向が決まっていない学生に対し、その進みたい方向が決められるような方策を実施することにより、全体の割合が上がってくるものと思われる。このことについては、キャリア支援委員会で検討をする必要がある。</p>					

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか</b>						
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること。 【約400字】	<p>本学部における自己点検・評価は、学部に設置された文学部自己点検・評価委員会によって行われている。本委員会は学科長や教務主任、学生部委員の経験者を中心に全7名で構成している。</p> <p>メンバーには、現状の問題を熟知し、かつ評価結果を学部教育の改善に活かすべく、役職者会のメンバーや学部内の常設委員会の委員長が含まれている。また、委員会での検証、問題点等については役職者会や教授会の前に学部長に対して中間報告の機会を設け、今後の文学部の改革等の方針策定に向けて情報を共有できるようにしている。</p> <p>2014年度は大学認証評価の実地視察があるため、学部長から諮問を受けた自己点検小委員会での検討内容を学部長に報告する機会を設け、自己点検評価の内容をこれからの学部運営に反映できるように、理解を深める機会を設けた。2015年度は学部長が交代したことにより、委員長と学部長で同じく自己点検評価の内容について、教授会審議前に報告をする機会を設けている。</p> <p>2016年度は2016年5月30日に委員会を開催し、「2015年度文学部自己点検・評価報告書」を作成した。同報告書は学部役職者会(2016年6月13日)で了承されたのち、2016年6月20日の教授会審議に付し、7月11日の教授会で承認された。その後全学の手続きを経て、明治大学ホームページで公開している。</p>					
<b>(2) 内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか</b>						
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること	<p>本学部の内部質保証の基本方針は、「自己点検・評価委員会」を責任主体とし、同委員会は評価結果及び改善方策を学部長に報告するものとしている。報告書を受け取った学部長は、役職者会において整理した後、学内各種委員会に審議依頼し、改善の具体化を促している。その後の改善状況は各種委員会から学部役職者会および教授会に報告され、進捗状況を点検する体制がとられている。また、自己点検・評価の作業を見据え、継続的に資料を蓄積した。2015年度についてはセキュリティを重視し、可動式な媒体に、教授会ほか各委員会の議事録、内規、学部作成の各種資料のほか、各年次の自己点検・評価報告書を蓄積している。</p>		IRデータが整備されつつあり、内部質保証システムに結びつける仕組みを学部として構築すべき段階に来ている。		役職者会において検討課題とすることを確認し、検討委員会の早期立ち上げを目指す。	

# 2016年度 文学部 自己点検・評価報告書

## 基準10 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。 ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること	毎年、役職者会新旧引継時に、当該年度の点検・確認が行われ、次年度学部長から各種委員会へ諮問し、改善を進めている(2016年度は2017年3月23日)。また、中長期的な課題として「新専攻の設置」について、2014年度より新専攻設置検討委員会において検討を始めていたが、2018年度の「心理社会学科哲学専攻」開設に向け、文部科学省に設置認可の申請をするに至っている。 2007年度認証評価時の助言・指摘において国際交流の不足を指摘されたが、2010年度に常設の「国際交流委員会」を学部内に設置し、海外協定校との連携プログラムの策定を始めとして、着実に実績をあげている。なお、国際交流に関わる教育プログラムとして「日本語教員養成プログラム」も2015年度より設置されている。 また、2013年度よりFD委員会を設置し、授業の活性化の方策(2013年7月22日、2016年6月20日)、ハラスメントの防止(2013年10月21日、2014年10月20日、2015年10月19日)、授業のための話し方(2014年4月26日、2015年4月25日、2016年4月23日、2017年4月22日)、シラバス作成について(2016年11月28日)など、継続的に研修の機会を設定している。なお、2016年度は、2017年度から開始される「総合的教育改革」に対応すべく、シラバス作成についての研修も実施した(2016年11月28日)。さらに、社会貢献の一環として、高校生及び社会人を対象とした「明治大学文学部読書感想文コンクール」を2010年度より特定課題推進費(政策経費)により毎年実施している。					
●学外者の意見を取り入れていること	学外者の意見の取り入れについては、特に行っていない。		外部の視点を取り入れる機会が少ないので、文学部においてどのような方法が考えられるか、検討すべき段階にきている。		役職者会において検討課題とすることを確認し、検討委員会の早期立ち上げを目指す。	